

# YOKOSHIN NEWS

平成26年 6月 5日  
横浜信用金庫

## 平成25年度決算概況について

横浜信用金庫（横浜市中区尾上町2-16-1 理事長 斎藤 寿臣）の平成25年度決算が確定いたしましたので、資料を添えてお知らせいたします。

なお、平成25年度決算につきましては、平成26年6月23日（月）に開催する通常総代会において報告します。

### 1. 本決算のポイント

- （1）63期連続の黒字決算
- （2）当期純利益前年度比5.39%の増益

### 2. 業容について

預金（譲渡性預金を含む）の期中平均残高は、前年度比3.24%増加し1兆5,904億円、期末残高は同4.26%増加し1兆6,007億円となりました。

貸出金の期中平均残高は、前年度比1.03%増加し8,620億円となり、期末残高は同1.33%増加の8,691億円となりました。

### 3. 損益について

経常収益は、前年度比5億63百万円減少し277億65百万円となりました。利回り低下により貸出金利息が減少したことが主な要因です。

経常費用は、前年度比2億20百万円減少し234億49百万円となりました。不良債権の処理費用の減少が主な要因です。この結果、経常利益は、前年度比3億42百万円減少し43億16百万円となりました。

また、本業の収益力を表す業務純益（一般貸倒引当金繰入後）は、前年度比17億37百万円減少し、42億91百万円となりました。

当期純利益は、前年度比1億50百万円増加し29億37百万円となり、昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、63期連続の黒字決算となりました。

### 4. 諸比率について

預金貸出金利鞘は、前年度比0.09ポイント低下し0.69%となりました。貸出金利回りは前年度比0.11ポイント低下し2.00%、預金利回りはほぼ横ばいの0.09%となりました。経費を含めた預金原価率は経費率の低下により前年度比0.01ポイント低下し1.30%となりました。

総資金利鞘は、前年度比0.08ポイント低下し0.08%となりました。資金運用利回りは前年度比0.1ポイント低下し1.39%となり、資金調達原価率は1.31%と同0.02ポイント低下しました。

自己資本比率は、前年度比0.22ポイント低下し11.86%となりましたが、引き続き国内基準（4%）はもとより国際基準（8%）も上回る高い水準を維持しています。なお、平成25年度より金融庁告示第21号の改正に伴う新しい自己資本規制（国内基準）に基づき算出しております。

## 5. 不良債権について

不良債権残高は、前年度比31億91百万円減少の512億67百万円となりました。不良債権比率は、金融再生法基準で前年度6.32%から5.88%に低下しました。

なお、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は、94.84%と高い水準を維持しています。

## 6. 平成26年度計画について

平成26年度の利益計画は次のとおりです。

(1) 業務純益	34億76百万円（前年度比	△8億15百万円）
(2) 経常利益	16億38百万円（	” △26億78百万円）
(3) 当期純利益	9億76百万円（	” △19億61百万円）

以上



横浜信用金庫